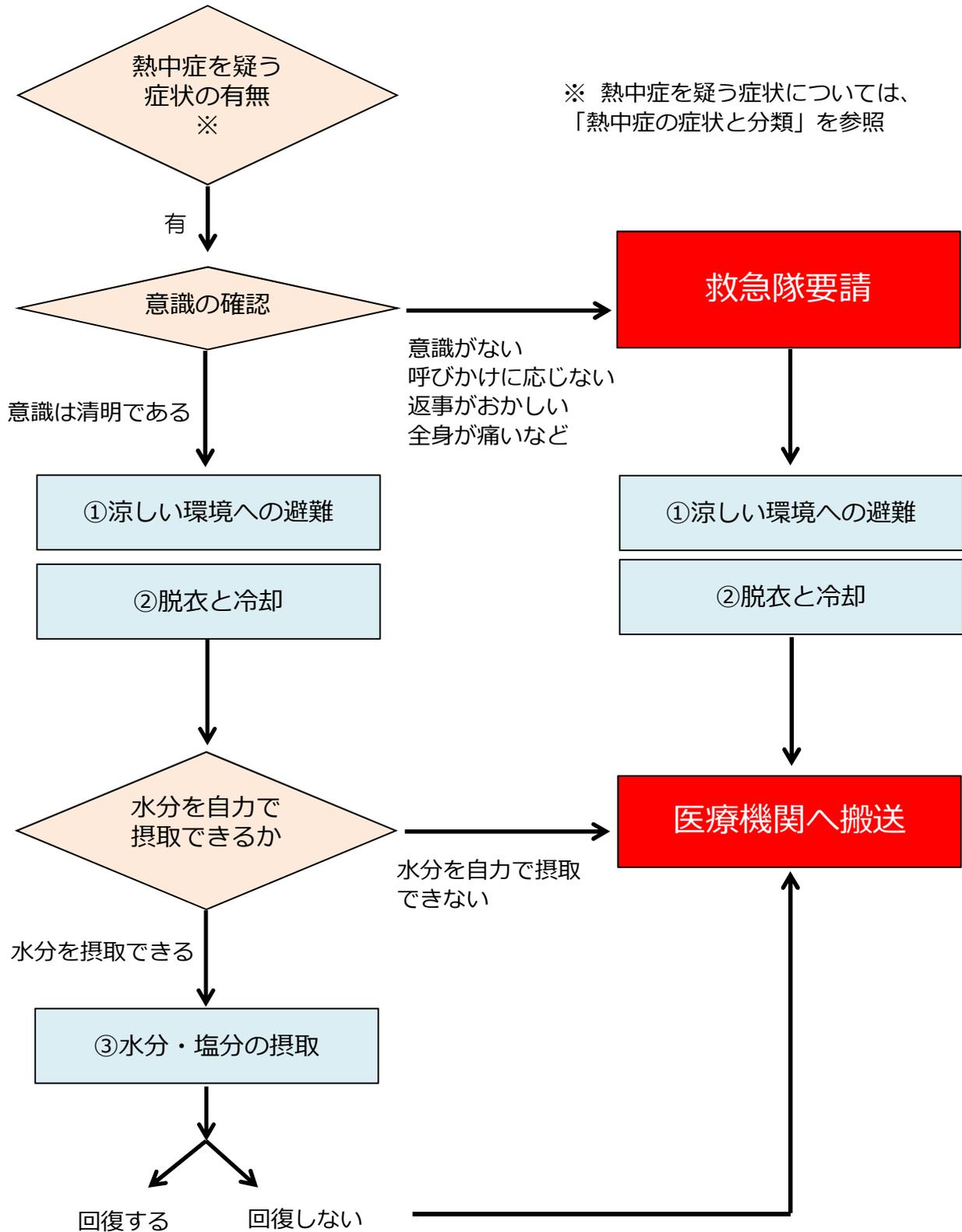


熱中症の救急処置（現場での応急処置）



上記以外にも体調が悪化するなどの場合には、必要に応じて、救急隊を要請するなどにより、医療機関へ搬送することが必要である。

熱中症の症状と分類

分類	症状	重症度
I 度	<p><u>○めまい・失神</u></p> <p>「立ちくらみ」という状態で、脳への血流が瞬間的に不十分になったことを示し、“熱失神”と呼ぶこともある。</p> <p><u>○筋肉痛・筋肉の硬直</u></p> <p>筋肉の「こむら返り」のことで、その部分の痛みを伴う。発汗に伴う塩分（ナトリウム等）の欠乏により生じる。これを“熱痙攣”と呼ぶこともある。</p> <p><u>○大量の発汗</u></p>	小
II 度	<p><u>○頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感</u></p> <p>体がぐったりする、力が入らないなどがあり、従来から“熱疲労”といわれていた状態である。</p>	
III 度	<p><u>○意識障害・痙攣・手足の運動障害</u></p> <p>呼びかけや刺激への反応がおかしい、体がガクガクと引きつけがある、真っ直ぐに走れない・歩けないなど</p> <p><u>○高体温</u></p> <p>体に触ると熱いという感触がある。従来から“熱射病”や“重度の日射病”と言われていたものがこれに相当する。</p>	大

(出典 厚生労働省労働基準局安全衛生部)